

私立大学研究ブランディング事業

平成30年度の進捗状況

学校法人番号	301001	学校法人名	高野山学園		
大学名	高野山大学				
事業名	「高野山アーカイブ」の構築と世界遺産高野山の生成・発展・継承に関する密教学的的研究				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	200人
参画組織	高野山大学(文学部・大学院文学研究科・高野山大学図書館・密教文化研究所)				
事業概要	高野山大学は創立130周年の伝統を有する密教の最高学府である。図書館、密教文化研究所では、多くの密教に関する貴重書が保管されており、世界に数少ない密教の教育・研究機関と言える。本学の過去の歴史的資料や、高野山文化圏に関わる多くの資料をアーカイブ化し、連続と続く1200年の密教の遺産を次世代へ繋いでいくことは、大きな価値を有すると考えられる。				
①事業目的	本研究の目的は、①真言密教の研究への新たな研究ツールの提供、②高野山に関する密教学研究の深化・促進(研究者のみならず、内外の一般ユーザー、地域住民、内外の観光客)③国際観光都市としての地域の再発見である。①②③を通じて、世界遺産である高野山全体のブランド力を高めることを目指している。				
②平成30年度の実施目標及び実施計画	【実施目標】■アーカイブシステム完成 ■地図アプリの情報を付与する。 【実施計画】■年間計画 弘法大師全集「平均620ページ」目標 ■広報サイト構築				
③平成30年度の事業成果	<p>■「高野山アーカイブプロジェクト」HPに「平成29年度の進捗状況」を公開。(平成30年5月)</p> <p>■「定本弘法大師全集」のデータ化および高野山大学図書館所蔵資料のデジタル化。「定本弘法大師全集」のデータ化については、全体の70%が終了。高野山大学図書館所蔵資料については、「定本弘法大師全集」のデータ化の進捗と対応させながら順次デジタル化に着手。</p> <p>■「高野山アーカイブ」ページの運用を本格化させ、4つのカテゴリにおいて順次公開。(平成30年5月～)。 https://archives.koyasan-u.ac.jp/ 「高野山アーカイブ」ページの運用後アクセス数は、平成31年2月末時点で16,082件。1ヶ月あたりのアクセス数は、ほぼ500～700件で推移。 *新聞掲載:読売新聞和歌山版連載記事「高野山からみた平成5 空海や密教 ネット発信」(平成31年1月6日付け読売新聞朝刊) 辞書機能の連動については、資金・著作権の問題を原因として、既存の辞書を掲載する当初目標から、簡易用語解説を自作し、段階的に掲載する方法を模索。</p> <p>■高野七口再生保存会および和歌山県世界遺産センターの協力のもと、地図アプリ制作に着手。製作業務は株式会社Strolyに委託。 (その後、「古絵図であるく高野山」として完成し、平成31年4月25日にプレスリリースを実施) https://m.stroly.com/koyasan/i#1544497603 古絵図は、高野山大学図書館所蔵の 「高野山之図」(江戸時代後期) 「高野山現今実際全図」(明治25年(1892)) 「参詣要覧高野山名所図会」(大正11年(1922)) を使用し、高野山内の景観の変遷がほぼ30年ごとにたどれるようにし、現在の地図をあわせて、現在との対比ができるようにした。 「紀伊統風土記」・「紀伊国名所図会」の情報をベースにした50ヶ所以上の解説文を日本語・英語・簡体字で作成した。</p> <p>■平成30年度の進捗状況について、内部評価および外部評価を実施。(平成31年3月)</p>				

(自己点検・評価)

■事業目的①については、概ね順調にその目的を果たしつつあると評価できる。アーカイブへのアクセス数は、同事業が社会的必要に答えたものであったことを示している。一方で、辞書機能との連動については、なお不十分である。電子化されたテキスト、写本にタッチペンで関与し、辞書機能により、利用者に応じた解釈、個々の文脈を生成することによる創造性の開放は、密教学の研究を深化させることが同事業の特色であるが、現状において実現可能なものかどうか、検討を要する。

■事業目的②および③については、地図アプリが実用化されることの意義は大きい。研究者のみならず、内外の一般ユーザー、地域住民、内外の観光客に高野山についての学術的情報を提供する試みとなっていると評価できる。

■ただ、事業開始から3年を経過し、当初計画の中に実際と即さない面もあるので、第二期に向けた事業計画の実際の見直しを要望する。

④平成30年度の自己点検・評価及び外部評価の結果

(外部評価) プロジェクトの期待度・評価の測定方法・助言等

■活用面での改善を希望する(高野山霊宝館)。

■写真やテキストを多用したわかりやすい解説を求める(高野山霊宝館)。

■今後内容が充実し、高野山大学所蔵の貴重資料に気軽に触れることができるようになれば、よりたくさんの方が高野山の本質を知り、魅力を感じるようになるものと期待する(高野町役場)。

■高野山を運営していた人々の実体が明確になれば、など興味深いものがある(外部有識者A)。

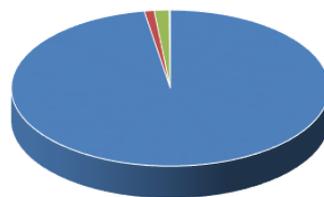
■高野山のみならず、各山に収められている真言教学関係の資料が解放されることで、長い年月の中で積み上げられてきた有職故実、真言宗を徹底的に再考を加え、現代の仏教的な考察方法に新しい宗学的な方法を合わせて、新しい宗学を作っていくという方向に、このアーカイブプロジェクトの最終的な総括があろうかと考える(外部有識者A)。

■地図機能は、確かに価値ある特徴である。それらがさらに発展して、多くの人々が利用することが想像できる。それは、より多くの人々を高野山を訪問する気にさせる(外部有識者B)。

■どんなインターネット検索でも、その最上位に現れるようにすることは非常に重要である。高野山を求めてインターネット検索をする人が、すぐにこれらの成果にたどり着けるようにすることを望む(外部有識者B)。

⑤平成30年度の補助金の使用状況

経常費補助金 内訳



- 委託費
- 光熱水費
- 消耗品費
- 消耗図書費
- 会議交際費
- 通信費

委託費 97.3%
光熱水費 1.0%
消耗品費 1.5%
消耗図書費 0.01%
会議交際費 0.06%
通信費 0.04%